

令和3年度病虫害発生予察予報第11号（令和4年2月）

令和4年2月4日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(中央、中西)</u> 、少(西) <u>やや多(西)</u> 、少(中央、中西) <u>多(県下全域)</u> <u>多(中西、西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(東)、少(中央、西) 平年並(中央、西)、少(東) <u>多(中央、西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 少(県下全域) <u>やや多(西)</u> 、平年並(中央)、やや少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(県下全域)</u> 平年並(中西)、やや少(中央)、少(東) 平年並(東、中央)、少(中西) <u>多(中央)</u> 、平年並(中西)、やや少(東) <u>多(東、中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u>
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 少(中央) <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ () 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方気象台 1月27日発表）

（1月29日から2月27日までの天候見通し）

<予想される向こう1か月の天候>

気温は、ほぼ平年並の見込みですが、2週目は寒気の影響を受けやすいため、平年並か低いでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、低い確率40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または低い高い確率ともに40%です。3～4週目は、低い確率40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	40	30	30
		降水量	30	40	30
		日照時間	30	40	30

<気温経過の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30
2週目		40	40	20
3～4週目		40	30	30

<予報の対象期間>

1ヶ月：1月29日（土）～2月27日（日）

1週目：1月29日（土）～2月4日（金）

2週目：2月5日（土）～2月11日（金）

3～4週目：2月12日（土）～2月25日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：やや多(中央部、中西部)、少(西部)

根 拠

(1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と中西部で平年よりもやや多く、西部で少なかった。発病程度は中央部で平年よりも高かったが、その他の地域では平年並以下であった。

(2) 2月の降水量はほぼ平年並と予想されているため、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(西部)、少(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりもやや多く、その他の地域では少なかった。発病程度は県西部で平年よりも高かったが、その他の地域では平年並以下であった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されているため、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、各地域とも発生面積は平年よりも多かった。発生程度は、県中央部と西部で平年よりも高く、中西部で平年並であった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されているが、例年、日照時間の増加とともに密度が高まる時期であることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は成長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(中西部、西部)、やや多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部と西部で平年よりも多く、中央部で平年並であった。発病程度は中央部と中西部で平年並、西部で平年よりも低かった。
- (2) 1月の調査では、各地域とも新たな発生は比較的少なかったが、媒介虫であるミナミキイロアザミウマは県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりも多く、その他の地域では平年並以下であった。
- (3) 2月の気温はほぼ平年並と予想されているが、例年、日照時間の増加とともに本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まる時期であることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を、低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部)、やや少(西部)

根 拠

(1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で多く、その他の地域は平年並以下であった。発生程度は、いずれの地域とも平年並以下であった。

(2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されているが、例年、日照時間の増加とともに密度が高まる時期であることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に既発ほ場では防除を徹底する。

(2) 本虫は、多くの薬剤に対し抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(東部)、少(中央部、西部)

根 拠

(1) 1月の調査では、県東部で発生が見られ、発生面積は平年並、発病程度は平年よりもやや高かった。

(2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されているため、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：平年並(中央部、西部)、少(東部)

根 拠

(1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られたが、発生面積は各地域とも平年並以下、発病程度は平年よりも低かった。

(2) 2月の降水量はほぼ平年並と予想されているため、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年よりも多く、東部では平年並であった。発病程度はいずれの地域とも平年並以下であった。
- (2) 2月の降水量はほぼ平年並と予想されているが、例年、発病の増加が見られる時期であることから、徐々に増加すると予想される。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少(県下全域)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部のみで発生が見られ、発生面積は平年より少なく、発生程度もやや低かった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されており、日照時間の増加とともに本虫の増殖には好適となる時期であるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に既発ほ場では防除を徹底する。
- (2) 本虫は、多くの薬剤に対し抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(西部)、平年並(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや多く、東部で平年並であった。発生程度は西部で平年よりも高く、中央部でやや高く、東部で低かった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されており、日照時間の増加とともに本虫の増殖には好適となる時期であるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は成長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

(1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域とも平年より多かった。発病程度は県東部と中西部で平年よりも高く、中央部で平年並であった。

(2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されており、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：平年並(中西部)、やや少(中央部)、少(東部)

根 拠

(1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られたが、各地域とも発生面積、発病程度は平年並以下であった。

(2) 2月の降水量はほぼ平年並と予想されており、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：平年並(東部、中央部)、少(中西部)

根 拠

(1) 1月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、両地域とも発生面積は平年並、発病程度は平年よりも低かった。

(2) 2月の降水量はほぼ平年並と予想されており、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)、平年並 (中西部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、中西部でやや少なかった。発生程度は中央部で平年よりも高く、中西部で低かった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されているが、例年、日照時間の増加とともに密度が高まる時期であることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。ただし、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に既発ほ場では防除を徹底する。
- (2) 本虫は、多くの薬剤に対し抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(東部、中西部)、やや多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は東部と中西部で平年よりも多く、中央部で平年並であった。発生程度は東部と中西部で平年よりも高く、中央部で平年より低かった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されているが、例年、日照時間の増加とともに密度が高まる時期であることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。ただし、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は成長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発病程度は平年並であった。
- (2) 2月の降水量はほぼ平年並と予想されており、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年よりも少なく、発病程度は低かった。
- (2) 2月の降水量はほぼ平年並と予想されており、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、新たな発生は見られず、発生面積は平年並、発病程度は平年よりも低かった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されているが、例年、日照時間の増加とともに本病の媒介虫であるタバココナジラミの密度が高まる時期であることから、既発ほ場やタバココナジラミの発生ほ場では発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年よりも低かった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されているが、例年、日照時間の増加とともに密度が高まる時期であることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は成長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.